

## 2020年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2019年11月28日（木） 10時00分～ 場所：ベルサール八重洲（東京都中央区）

出席者：代表取締役社長 大上誠一郎、常務取締役 大成俊文、取締役 栢森啓、

制御システム事業部長 平光和幸

Q1

情報システム事業の業績が計画より大変良かったということで、機器販売が非常に伸びているようですが、呼出ランプが台数的に伸びているようなので、製品販売の金額での開示をいただけないでしょうか。

A1

呼出ランプに関しては、12ページに販売台数の実績を記載しております。BiGMO PREMIUM II、REVORA、IL-Xシリーズの3機種がありますが、機能を含めて上から松竹梅となっており、価格帯もそのような価格帯となっており、上が約8万円から下が2万5千円くらいまでの幅で販売しております。金額はそのまま掛算となり、非常に大きなシェアを占める売上となっております。

Q2

ホールコンピュータ「X（カイ）」は計画よりは売れていないのかもしれませんが、業界的には御社がシェアを取っているように見えます。これは差別化ポイントというか、何かあったのでしょうか。

A2

「X（カイ）」は6月にリリース、7月から販売しておりますが、新店等の動きがない非常に厳しい状況ですので、現状の販売戦略は既存顧客約3,500軒のホール様の入れ替え等をメインで動いております。

「X（カイ）」の「売り」はいろいろありますが、膨大なデータ分析作業をされているホール様の効率化、時短を目指しているという点と、店長やベテラン社員に属人化している作業を若い社員でも分析できるようなソフトを組んでおります。他にも、パチンコ新内規の「設定付き」という新分野がありますが、そのシミュレーション機能が高い評価をいただいていると思っております。

Q3

情報システム事業のセキュリティ関係機器が評価されて買われているということは、市場でパチンコ・パチスロの新台や中古台が売れなくても、御社のシステムは下期もっと売れそうな気がしますが、そのような受注状況になっていますか。

A3

セキュリティ機器と言いますと、CRユニット「VEGASIA」の販売台数に関連するところですが、「VEGASIA」に関しては下期もある程度順調に推移すると思っております。ただ、12月のパチスロの撤去が販売に非常に大きな影響があると考えており、撤去予定の遊技機ではコアなファンが遊技されていますので、1月以降このファンがパチンコに移るのか、パチスロ

の他の機種にいくのか、あるいは少しお客様が減っていくのかといったところがホール様の喫緊の課題となります。そこを見極めたうえで年度末に向けての投資はあるのかなと期待しております。

Q4

制御システム事業の上期の業績ですが、売上自体は伸びてはいますが、計画より利益が落ち込み、下振れが少し目立ちますが、これは何か要因があるのでしょうか。

A4

上期の売上が伸びた要因は、制御ユニットや商品関係が伸びましたことによります。一方利益が下がった要因としては、比較的利益率が高い表示ユニットが減少し、利益率の低い制御ユニットや商品関係が増えたことで、結果として全体的に利益が下がりました。

Q5

ホールコンピュータが順調に推移したということですが、販売台数が計画に対して下振れしています。これはすべて新しいホールコンピュータの販売台数ということでよろしいでしょうか。

A5

上期として4～5月の数字も入っていますので、従来の「CⅡ」コンピュータも入っていますが、それ以降は「X（カイ）」となります。あくまでも新規販売件数となりますので、「CⅡ」から「X（カイ）」へのシステムアップ件数は含んでおりません。

Q6

CR ユニット「VEGASIAⅢ」などセキュリティ機能を有する機器が好調であったことが上期の上振れ要因ということですが、12月のパチスロ機大量撤去に向けた不透明感として、ホール様がどのような投資をしていくのかが見えづらく、需要はあるけれどもお金がそこに回ってくるかどうか見えないため、計画を据え置いたという理解でよろしいでしょうか。

A6

その通りです。

Q7

旧基準機撤去のスケジュールの見通しですが、なかなか新基準機の収益貢献が見込めない中で、想定通り撤去が進むのか、ホールによっては減台しているところもあると思いますが、最終的には撤去はされるが新台の需要につながらないリスクを考えておくべきなのかどうか教えてください。

A7

撤去については間違いなく行われていくと思います。撤去される台数がそのまま新規機に入れ替わるかどうかは、まだホール様も模索している状況だと認識しております。現状はパチスロにしろ、パチンコにしろ、新規機が苦戦している中で、この状態が続くと一部のホール様では例えば島封鎖するだとかいうことも事前の話としては伝わってきていますので、ホール

様も模索している状況だということになると思います。

Q8

遊技機そのものに対する投資があまり積極化しない中で、結果ホールの損益はそんなに悪くなっておらず、むしろ御社が推進しているホール運営の効率化を進めていくような周辺機器に対する投資が増えていくようなポジティブな見方もできると思いますが、このあたりの考え方について教えてください。

A8

ここ数年、遊技機への投資は減っており、大手ホール運営企業を中心に内部留保は増え、財務状況は良い状況になっています。省力化・省人化に向けてホールコンピュータ「X（カイ）」やCRユニット「VEGASIAⅢ」等の販売の期待は持てるのですが、如何せんホール様ではパチンコに投資するべきなのか、パチスロに投資するべきなのか、なかなか見極めがつかず、遊技機の入替えは他の付帯工事も発生するため、その見極めも含めて判断できていないというのが直近の状況です。

Q9

遊技機市場自体は縮小傾向ですが、パチンコホール全体の足元の収益であるとか、特に御社のお客様であるような大手のパチンコホールの収益というのが前期から今期にかけてどのように推移をしており、現状の遊技機の状況を見極めてこの先ホールの収益自体がそんなに悪化しないと見ていいのかわかるか、お客様の状況に対しての考え方を教えてください。

A9

大手ホール運営企業はキャッシュリッチとなっており、このキャッシュをどう使うか模索中という企業もあります。ただ、稼動も粗利も下降傾向であり、再来年 2021 年 1 月の時点で業績がどのあたりで下げ止まっているのかというところが、なかなか見極め切れないということもあります。ホール軒数自体も減少傾向にあり、大手企業に関しては今まで通り活発に水面下で動いていますので、再来年の 1 月を機に少し機運が上がるのではないかと、ホール様も期待を持っているのではないかと思います。

Q10

キャッシュフローの状況ですが、上期は営業キャッシュフローがかなりプラスで、投資キャッシュフローがそれほどマイナスになっておらず、いろいろな投資が一巡して回収期に入ってきていると考えていいのかわかるかという点と、今後投資としては何か大きな投資を考えているのかわかるか、あるいはキャッシュが積み上がっていくのであれば、それをどう活用していくのか教えてください。

A10

資料の 23 ページにあるように、4～5 年前に大きく何十億か投資しまして、いまホールコンピュータ「X（カイ）」の回収時期に入っております。キャッシュについては 5G など時代が大きく変わる時期にきておりますので、投資を始める時期にきていると考えております。

Q11

御社の呼出ランプか何かが以前パチスロ「北斗の拳」専用として設置されていたような気がしますが、今回の機種には設置されていないのですか。

A11

呼出ランプの「BiGMO PREMIUM」、「REVOLA」に関しては、この 11 月販売のパチスロ「北斗の拳 天昇」においては、ソフトの特別対応により、非常にコアなデータを表示できるようにリリースしております。

Q12

「北斗の拳 天昇」は、セガサミーさんの計画が 3 万台だったところ、6 万台の受注と聞いていますが、御社のランプもそのくらい増えると考えていいのでしょうか。

A12

上期に対応しました大都技研様のパチスロ「Re:ゼロ」の時は「BiGMO PREMIUM」の販売台数に寄与しましたが、今回はあまり影響がないと思っております。

Q13

上期に「BiGMO」が売れたのは「Re:ゼロ」の効果が大きかったということによろしいでしょうか。

A13

「Re:ゼロ」の効果もありましたが、あとは大手ホール運営企業様のパチスロ向けを中心に販売できておりますので、良い影響となったと思っております。

以上